

釧路孝仁会記念病院医療(脳卒中)ネットワーク 早期の治療を可能にする遠隔診断



社会医療法人孝仁会
理事長 齋藤 孝次 氏

1秒でも早く適切な治療を行えば、後遺症を抑え、機能回復が期待できる脳卒中。社会医療法人孝仁会が自ら中心となって北海道東部の脳神経外科医がいない医療機関と画像転送ネットワークを構築し、専門医が遠隔診断する仕組みを運用している。その概要について、同会理事長の齋藤孝次氏に聞いた。

脳神経外科の専門医が遠隔地の患者さんを診断

—北海道の釧路、根室(釧根)地区は特に寒さが厳しいため脳卒中の患者さんも多いことでしょう(図1)。また、医療圏が広大だという特殊性もありますが、それらに対応した取り組みからお聞かせください。

齋藤孝次氏 脳梗塞などでは、4時間30分以内に施せば効果が高いt-PA療法があります。それ以外でも脳卒中は早期に適切な治療を施すことで、後遺症を軽減したり、リハビリテーションでの機能回復の効果が高まったりします。ですから、できるだけ早く脳神経外科の専門医にかかる

必要があります。

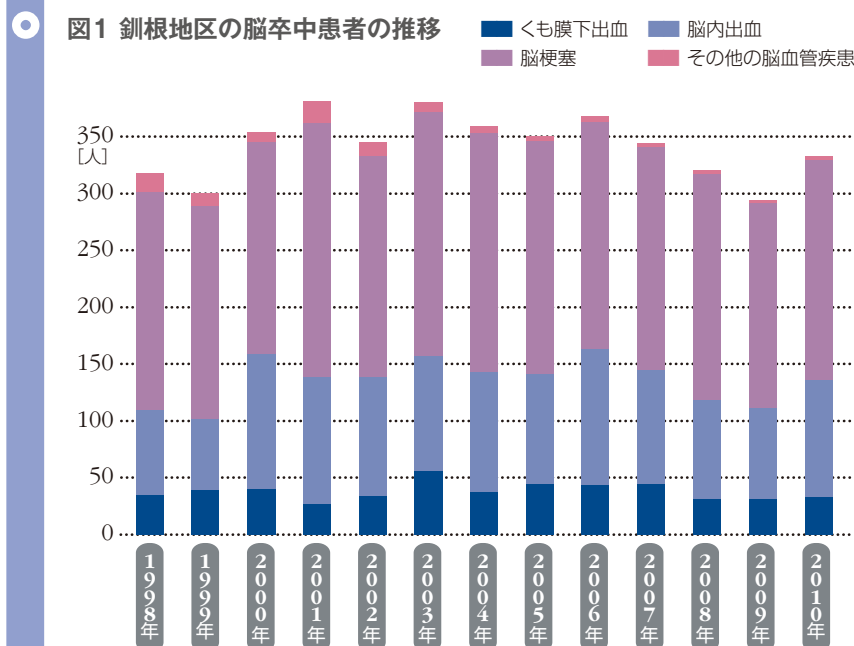
それを実現するには、脳に異常の疑いがある患者さんを適切に診断し、どのように対処するか決めることが重要でした。そこで、構築したのが画像転送ネットワークです(図2)。まず、患者さんが運ばれた医療機関でCTなどの画像検査を行い、その画像を釧路市内の医療機関にいる脳神経外科医の下に送り遠隔診断します。

具体的には、異常所見の有無と種類を診断し、脳神経外科への転院の緊急性を判断します。転院が必要と判断した場合は、手術など適切な処置の準備をして患者さんの到着を待ちます。

このネットワークをスタートした1995年当初は、検査結果のフィルムをデジタルカメラで撮影し直して電送していました。現在では、DICOM画像を直接画像サーバーに送れるようになったので一層スピーディーに遠隔診断が行えるようになっています。

道東エリアでは、手術などが必要な患者さんは脳神経外科の専門医がいる釧路市内の医療機関に運ばれます。しかも、これらの医療機関は9500km²と広大な医療圏をカバーしています。釧路までの搬送時間が救急車でも3時間以上かかるところがあります。

加えて、数少ない貴重な救急車がその管轄エリアを出てしまうと、他の



釧路、根室、中標津保健所管内の脳卒中の患者さんの内訳を見ると脳梗塞の比率が高い。



救急患者さんを搬送できなくなり、医師が付き添えば、一時的にですがそのエリアの

医療資源が減ってしまうことになります。ですから、搬送の必要性を適切に判断しなければなりません。

2009年には、搬送時間を短縮するためにドクターヘリを導入しました。救急車に比べておよそ5分の1の時間で搬送できるだけでなく、集中治療室並みの医療機器とともに医師や看護師が搭乗するので、患者さんの収容直後から初期治療を施せるようになりました。ドクターヘリの導入前に比べて救命率が向上しています。

● 退院後に通う病院と患者さんの情報を共有する

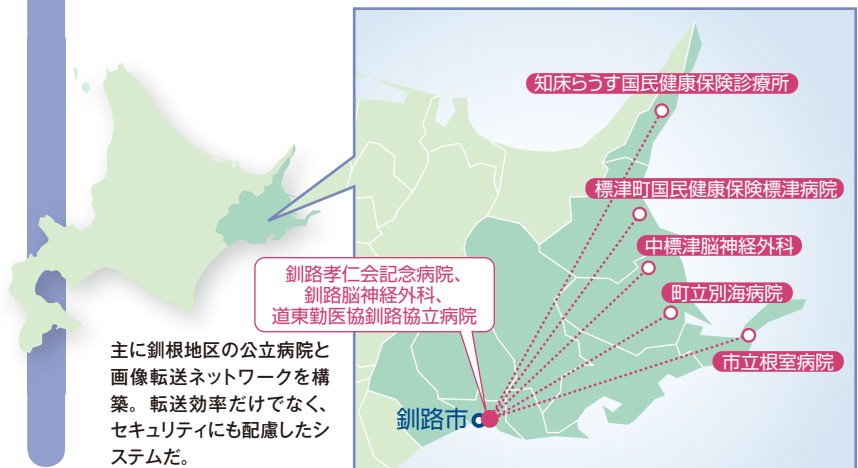
——脳卒中の患者さんは急性期病院で治療を受けた後も、機能回復のためのリハビリテーションなどが大切です。回復期のケアについてはどのような対応を取られていますか？

齋藤氏 現在では、コンピュータや通信技術の向上に合わせて、ネットワークで共有できる情報量を増やしています。地域診療情報連携システムとして、患者さんの既往歴、現病歴、入院治療経過、検査結果、服薬内容などをサーバー上に置いて、急性期加療終了後も、患者さんが入院、通院する医療機関と情報を共有できるようにしています(図3)。さらに、この情報共有を医療機関だけでなく保険薬局、老健施設、訪問看護ステーションなどとも行うことで、患者さんに対する医療、介護サービスの向上につながると考えています。

● 脳神経外科医の技術向上と脳卒中予防にも注力

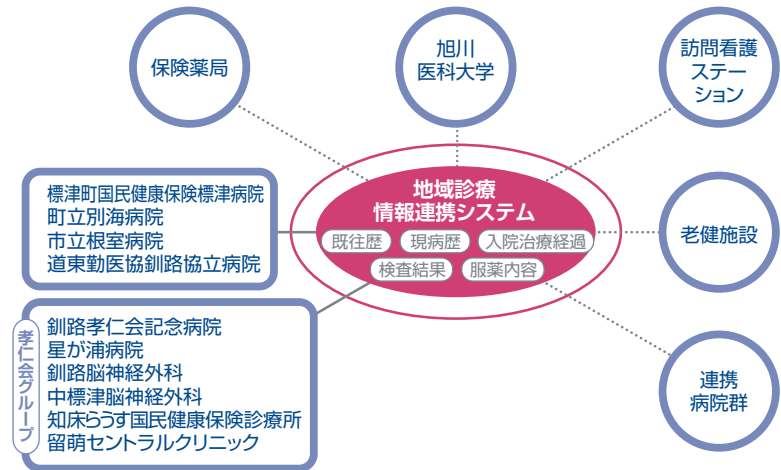
——釧根地区では脳卒中の患者数そのものが減少する傾向をみせているよ

図2 脳卒中発症時の対応を早める「画像転送ネットワーク」



主に釧根地区の公立病院と画像転送ネットワークを構築。転送効率だけでなく、セキュリティにも配慮したシステムだ。

図3 「地域診療情報連携システム」は回復期に対応



急性期加療後に患者さんが入院、通院する医療機関との情報共有を基本としているが、保険薬局や訪問看護ステーション、老健施設との連携も進める。

うですが、予防の観点からの取り組みも行っていますか？

齋藤氏 釧根地区は冬の寒さが厳しいうえ、以前は塩分の摂取量が多い食生活を送っていました。そこで、食生活の改善をはじめとした注意点を孝仁会の広報誌やホームページで市民のみなさまに伝えています。

また、釧路孝仁会記念病院内に高度健診センターを開設し、脳卒中、心疾患、がんの三大疾病を中心に、人間ドックや企業を対象にした定期検診を行っています。

発症後の治療やリハビリテーションだけでなく、発症そのものを減らす取

り組みも大切なこととして力を入れています。

——釧路孝仁会記念病院には9人の脳神経外科医がいらっしゃいますが、ぜひぶん充実していますね。

齋藤氏 根室や中標津、留萌などの関連病院も含めれば、13人になります。ありがたいことに脳神経外科の専門医を目指したいと考えている医師が研修先として当院を選んでくれます。北海道に限らず、道外からもやって来ます。ネットワークシステムの進化に負けなよう、脳神経外科医はみな自身のスキルアップにも取り組んでいます。